

鬼畜米國の正

被抑留邦人にきく



大政翼賛會

特247

436



* 0001068000 *

0001068-000

特247-436

鬼畜米國の正体

大政翼賛會宣傳部・編

大政翼賛會宣傳部

昭和18

AAB

特 247
436

鬼畜米國の正体

被抑留邦人にきく

この本を、お読みになつたら、隣組や、職場で、回覧して下さい。これからは雑誌でも、本でも、一冊を十人も百人もの人で読めるやうに、お互ひに工夫してゆきませう。

大 政 翼 贊 會



目 次

野蠻國アメリカ……………前田多門…二

米國の假面を剥ぐ……………前毎日新聞社
=ニューヨーク支局長高田市太郎…五

開戦前後のルーズベルト……………朝日新聞社
政経部次長河野健治…三

米國に世界侵略の特権ありや……………永井柳太郎…四

野蠻國 アメリカ

前田多門

鐵條網で包圍した收容所

私は大東亞戰爭勃發の當日、敵の官憲によつて抑留せられました。それから後、拘禁生活を續けて居りましたが、昨年六月に始めて交換船に乗せられ、またロレンスマルケスに於きましては、わざわざ故國からお迎へに來られました淺間丸に乗せて戴きまして、八月にこちらに歸ることが出來た一人であります。一番最初に歸して戴きました者の義務といたしましても、先方の事情を審さに御話して、まだ多數殘留して居らつしやる所の我々の同胞の方々が、暴戾なる敵國の官憲の抑壓の下に、日々呻吟してゐらつしやる状況を御傳へして、お一人でも多く同情を其の方面に注いで戴きます爲に、先方の事情を御報告することは、是は當然爲すべきことであると思ふのであります。戦争の起りました當日は、縛られました。エリスマイルランドの牢屋に入れられました。此所は

不正移民を入れる所でありましたが、そこに叩き込まれたのであります。相當苦勞をした譯であります。併しながら二月の末頃に、外交官諸君の居られます。是は相當豪華なホテルであります。此處に外交官諸君を軟禁して居つたのであります。其處に移されましたから後は、精神的の苦痛は別問題と致しまして、物質的の待遇は二月の末から樂になつたのであります。苦勞を致したものは二ヶ月半ばかりのことです。之に反して同じ獄舎に捕へられて居りました方々のうちの多くは更にキャンプに送られました。キャンプといふ所は敵國の官憲が非常に履きちがひを致しまして、丸で戦さの捕虜を扱ふ以上のひどいことを致した所でありまして、きく所に依りますと、鐵條網を三重に廻して機關銃を備付け、さうして四隅に物見の臺を作つて、一步でも外へ出れば、射ち殺すぞと嚇かすばかりでなく、現に西部の方では一寸考へ違ひをした抑留者が一步外へ出ました所が、足でも撃つのなら兎も角、胴中を鐵砲で撃たれまして、その人の葬式が實に悲痛な氣持を以て行はれたと云ふ話もきいた位であります。

三疊に二人の割のキャンプ生活

私の容れられた所はエリスマイルランドであります。ここは二組に分れて居りまして、廣さが百五十坪づゝであります。後の参考の爲に私は専門家の方に測つて貰つたのであります。日本の數

字で申しますと百五十坪程であるといふことでありました。その百五十坪の所に二百人位入れられて居つたのであります。其處だけが天地でありまして、一步も外に出ることを許さないものであります。後になりましてから僅か許されました一週間に三度、一回三十分づゝ獄卒共が附きまして外出し、集團的にはありますが抑留者と、(又イタリー人の抑留者とも)顔を合せ目禮をする機會が與へられ、稍々氣持が伸びやかになつたのであります。それが一週に三回、三十分づゝで、それ以外はさういふ所に押込められて居つた譯であります。

拳銃をつきつけ、手錠をかけて拘引

さうして其處に引立てられます時も、私が年寄でもあるし、それから腕力も強くないとみくびつたせいでありませう、三人ばかり巡查が來まして、別に縛つて連れて行かれたのでなく腕を捉へて行つた譯であります。人によりますと、ニューヨークの郊外に住んで居た若い人などは、いきなり巡查が來てピストルを突き付けて傍に寄ると云つたそうであります。傍に寄るといふのは、日本人は柔道を知つて居るから傍に寄ると投げては困るといふので、「傍に寄るな、傍に寄るな」と言ひながら、ピストルを突き付けつつ連れて行つた。と云ふことであります。更に西部の方面に於きましては、皆手錠を掛け、さうして皆囚人護送の自動車に抛り込んで連れて行つたといふことで

あります。是は一事が萬事であります。私共は所謂危険人物だと開戦劈頭から考へられまして、獄舎住ひ、所謂キャンプ生活をさせられました。

樞軸國抑留者の割合

其の數を申し上げますと、是は後に獄中で讀んだ新聞で承知を致したのであります。日本人は五千何百人といふことになつて居ります。それからドイツ人は二千何百人、イタリー人は千何百人といふ數になつて、合計一萬人近くの者が敵國外人の中で、斯ういふ拘束を加へられて居るのであります。此の數字は非常に私は興味があると思ふのであります。と申しますのは、アメリカに於けるこれ等三つの敵國外人の中で、どの國の人間が一番餘計にあすこに暮して居るかといひますれば、是は申す迄もなくドイツ人及びイタリー人です。其の數字は内輪に見ましても、各々五六百萬人は下らないと見て居るのであります。況んやドイツ系統のアメリカ人或はイタリー系統のアメリカ人といふことになりましたならば、是は無論千萬人をこえる場合があると思ふのであります。兎に角まだ國籍を持つて居る外國人と致しましては、各々五六百萬人はある。處が日本人のアメリカに在留致して居ります者の數は、彼等の無禮極まる種々なる排斥法の結果、今日は數が減つて居るのであります。稍々殖えるのは二世だけであります。統計の上から見ましても、十二萬

人といふことになつて居ります。是はハワイの方は除きますが、アメリカ本土に於て十二萬人といふことになつて居りまして、(ドイツ人、イタリー人は各々五六百萬人を下らない)斯くの如く數の差があるにも拘らず、最も少數なる在留民を有する日本人が、五千何百人もさういふやうに、縛られてゐる。ドイツ人は二千何百人、イタリー人は千何百人といふやうに相成つて居ります。是は何を物語つて居るのであるか、更にさういふやうに牢屋住ひを致して居ります者の數はそれだけでありますが、西部に於ける所の日本人は、是等危険人物として拘禁せられて居ります者を除いて彼等が危険でないとして居る、否そればかりでなく彼等の憲法に依つて其の國籍を取得して居ると考へられて居りますところの者、即ちアメリカ人の國籍を持つて居る人も、一世、二世の區別を問はず、又老若男女を問はず、一切合切西部海岸に居ります同胞諸君は、全部奥地の方に強制移住を命ぜられたのでありますから、是は名目は立ちますが、事實に於いては拘禁をせられたのと同じことでもあります。

全邦人を強制移住

是もアメリカの新聞に於て見たことでもあります。彼等は豪語して曰く、「今日に於ては西部海岸に於て、日本人にして在留する者は、僅に三人である。」といふことを申して居ります。斯くの如く

全部擧つて強制移住を命じ、而も二世も之に含めるといふことは、彼等が自ら制定した所の憲法を蹂躪するものであります。是も同じ敵國外國人でありまして、ドイツ人とか、イタリー人には左様なことは致して居らないのであります。西部海岸は太平洋に面し、日本艦隊が何時攻めて來るか分らないから、國防の必要上之をすると申して居るのであります。其の口實の如何は兎に角と致しまして、日本人だけに對しまして、斯くの如き非理暴戾なる待遇を加へて居るといふことを御記憶願ひたいのであります。同じ敵性外國人の中でも日本人に對して段違ひの待遇を致して居るといふのは、是は即ち日本人を非常な力を以て憎む、唯に國民が之を憎むのみならず、政府があらゆる宣傳の方法を盡しまして、日本人を目の仇として憎悪し、所謂鬼畜の如く思ひ込んで居るのであります。又國民も愚かなるが故に斯くの如く思ひ込んで居る證左であると思ひます。

我々の當の敵である米國は斯くの如きことを我々に向つて致して居るのであります。日本を憎む、其の憎む感じの中に、ともすれば現れてくるのは顔の色の違ふことに對する反感、輕蔑、斯ういふやうなものが交つて居るといふことは、是は言ふ迄もないことでもあります。

眞珠灣の奇襲に狼狽

更に彼等は眞珠灣の奇襲に周章狼狽して、日本人は何をするか分らぬといふやうに怖れの氣持も

手傳つて居ることは、見逃せないであります。茲に於て彼等は「忘れるな眞珠灣」といふことを戦ひの標語と致して、國民の敵愾心を日本人に集中せしめることを圖つたのであります。然るに此の標語の色が日に日に褪めて標語としての魅力を失つたのであります。既に私共の居る間に其の魅力を失つたのであります。と申しますのは、何んであるかといひますならば「忘れるな眞珠灣」といふことは、彼等の考は、日本が如何にも騙し撃ちをした。この騙し撃ちに對して仇を打てといふ意味で言つて居るのであります。アメリカにも識者がありまして、段々頭を冷靜にして考へて見ますと、何も日本人が騙し撃ちをしたのではない、アメリカは十一月二十六日、即ち十二月八日に起つた戦争の數日前の十一月二十六日に、國務卿のハルが日本に突き付けました不禮極まる、傲慢極まるところのあの最後の通牒、最後の通牒と等しいところの通牒がなかつたならば、斯ういふ戦争が起らなかつたといふことが分つた。あの最後の通牒は何であるかと言へば、日本は支那に駐屯して居る所の兵隊を一切合切引け、佛印に居る所の兵隊も一人残らず引け、支那の政權は重慶政府だけを認めよ、而もお節介のことには、日本は獨伊の樞軸同盟から脱せよ、是では日本の立場が一つもないのであります。如何に協調妥協の精神を以て、日本が戦争を防ぐべく色々の方法を講じましても、斯かる傲慢不禮なる通牒を押付けられて黙つて居る日本ではないのであります。ですから先方の敵國人の中にも、例へば私の記憶する所では、デビットノリスといふ男は、アメリカに

於ても言論の制限と云ふものは随分強く行はれて居りますから、聲は高くはありませんが、新聞の片隅に於て一月頃でありますか、どうも十一月二十六日のハルの通牒を以てしては、是は必ずしも日本が騙し撃ちをしたとは言へないぢやないか、斯ういふことをやる以上は、もう少し政府は國民に本當に納得の行くやうな説明をして掛かつたらどうかといふことを書いて居る位であります。更に數ヶ月前にこちらの新聞でも御覽になりました通りに、眞珠灣の不始末に就ての査問會が開かれました、その報告が公にせられたのであります。眞珠灣に於て日本に攻撃せられた際に彼等陸海軍の執つた處置はどうだといふことを、査問會が調べて公表致しました。其の報告を見ると、彼等は實にふしだら千萬、不準備千萬、既に中央から二回も言葉を盡して何時日本が攻めて来るか分らぬから準備をしろと言はれたにも拘らず、出先の官憲は之を等閑に附して居る。あの査問會の報告を見ますと、其の當日一兵卒が日本の飛行機が來たのを認めて之を上官に報告したにも拘らず、上官は之を握り潰したといふやうな醜體迄も書いてあるのであります。さういふことが國民に分つて來ますと「忘れるな眞珠灣」といふことは、所謂日本の騙し撃ちを忘れるなといふよりは、自分の方の間拔さ加減を忘れるなといふことになつて來る。そこで私は此の耳を持つて聞いたのであります。抑留中にラジオで色々なことを言つて居ることを聞きますと、ラジオのアナウンサーが何を言ふ時にも、常に日本に對する敵愾心を起させる爲に「忘れるな眞珠灣」といふことを申して居

つたのでありますが、二月の初め頃であつたと思ひます。

戦争目的のない米國

私の聞いた所に依りますと、それがいきなり變りまして「忘れる眞珠灣」となりました。標語も斯うなつてはお仕舞です。この前の世界大戰の時も、私は偶然アメリカに居つたのでありますが、この前の世界大戰に於てのアメリカの標語といふものは、實はこの戦争は戦争を止める爲の戦争である。この戦争は世界のデモクラシーを擁護する爲の戦争であるといふやうなことを申したのであります。是等の標語は最後迄相當魅力を持つて居つたのでありますが、今回は「忘れるな眞珠灣」が二三ヶ月で以て效力を失つてしまつた。そこで何を以て標語とするか、今日迄未だ全國民を率ゐるに足るやうな標語といふものが見付からないやうに思ふのであります。是は結局彼等が正義に立脚して居らない爲に、本當の戦争目的と云ふものをはつきりさせることが出来ないからである。そこで私共の氣の付いた限りに於きましては、この頃は彼等は仕方がないから、斯ういふやうに言つて居る。この戦は、アメリカ流儀の生活が立つか立たないか、生死の關頭に立つ戦争である。この膝一度曲げて、若し樞軸國民の勝利に歸するやうになれば、折角先祖傳來築き上げた所のアメリカ流儀の生活は立たなくなつて来る。だから之を死守しなければならんといふやうに申して居るやう

であります。アメリカ流儀の生活とはなんぞや、ルーズベルトが申します、「自由」所謂デモクラシーとか色々なことを申すのでございますが、このデモクラシーといふことをかした話でありまして、デモクラシーの國の爲に戦ふと申しながら、彼等が仲間として居ります者は、何んでありませう。重慶政府の蔣介石、是ほど大きな獨裁者はない譯であります。

中南米に對する米國の金權謀略

又中南米諸國を金で面を張つて自分の味方にして居りますが、中南米諸國は決して心からアメリカに服して居る譯ではない、アメリカは金のある野蠻な國だと中南米諸國の人々は考へて居る。それは中南米の人はラテン系の文化を基調として居ります。ところが北米合衆國は米英文化を基調とする。而もそれは極めて新開地的の大雜把ざつぱな何等潤ひのない、何等床しいところのない、ダラー・オール・マイター、つまり何んでも金さへ多くあればといふ考へで出來てゐる文化を基調として居りますから、ラテン系統の文化を傳へ鍛はれて來て居る中南米の國民は、腹ではアメリカ人を野蠻人だと考へて居る。けれど彼等は無氣力であります。又他に依るべき處がないのでありますから、アメリカが金で面を張り、自分の言ふことを聞かなかつたならば、物もやらない。攻めるといへばそれ迄のことでありませうから、今日はアルゼンチンだけは中立を維持して居るやうであります。

其の他のものは皆アメリカに付いて居るのであります。是等の國々の政體は何んであるかといふと、御承知の通り多くは獨裁政治で、デモクラシーの爲に戦ふとほざいて居りますけれども、實は自分の仲間には方々に獨裁國があります。デモクラシーの爲といふ譯にいかない、自由と言つてもまだはつきり分らない。そこでアメリカ流儀の生活といふことは、労働者でも自動車を持てる、或は労働者でも電気冷蔵庫を持てるといふ贅澤三昧に耽ける、さういふ生活が、自由、デモクラシーと考へてゐる。さういふものを五目壽司みたいにごつちやに合せた、何が何んだか分からないものがアメリカ流儀の生活であるが、アメリカのものなら何んでも宜しい、斯ういふ考へで、戦争目的を立てて居るやうでありますけれども、是は本當の戦争目的といふことは言へないのであります。

文明の皮をかぶつた野蠻人

而も彼等が擁護すると言つて居るアメリカ流儀の生活といふものは、其の正體は何であるか、私が前にロシアに行つた時に、或人から聞いたのでありますが、ロシア人の顔を一枚取ると韃靼人が出て來るといふことを聞いたのであります。是は讚めた意味で言ふのか、けなした意味で言ふのか分りませんが、それと同じ表現の形式を用ひますと、アメリカ人の顔を一枚剝ぐと野蠻人が出て來るのであります。彼等はなる程今日は文明を唱へ、或は正義人道を唱へて居りますけれども、併

しながら六十年前迄は土人と戦ひ、印度人を虐待し、又黒人をアフリカから奴隸として連れて來て之を虐待して、下積みの仕事をさせ、支那人を呼んで來て鐵道を建設して、自分がうまい汁を吸ひ、更に日本人を招致して不毛の地を拓いて、農業をなさしめ、其の他あらゆることをなさしめ、自分が不當な利得を得て、其の間に實に残酷なことをして居る。此の癖が今以て残つて居るのでありますから、平生は鹿爪らしいことを言つて居りますが、いざ事が起ると突然變異的に實に亂暴なことを致します。是が何よりの證據として、今以て南部に於てリンチと云つて法律や裁判の判決に因らないで、私人が恣に私刑を行ふことが行はれてゐるのであります。是は主に黒ン坊に對してありますが、其の死刑のやり方もひどいやり方でありまして、自動車で以て其の人間を引きずり歩き、さうして廣場に持つて行つてガソリンを掛けて焼き殺してしまふ。文化を誇るニューヨークの銀座通りに於てギヤングが人殺しをしたと云ふことは、殆んど毎日新聞に出るといふやうに、さういふ非常に野蠻な方面があるのであります。私の友人でありますスイスの大學教授が、アメリカ人といふものは、或時に於てはスタンビードする。スタンビードといふことは、牛や馬が何かに驚いてパツと駆け出すやうに、兼好法師の所謂狂人走れば不狂人も亦走るといふことであります。平生は文明人らしい様子を致して居りますが、カツとなると實に思ひ切つた野蠻極まることをする、是は先般議會でも論議されましたやうに、實に非人道なことを致すことに外ならないと思ふのであります。

す。而も之に加へて人種的の憎悪、政治的に日本の擡頭することを段々押へて行かなければならぬといふ、もう二十世紀の始から殆んど相傳へて來ました所の傳統的なアメリカの政策、是等のものが一切合集りまして、特に我々に對して斯かる野蠻なる所の行動を致すといふことを考へます時において、敵愾心が足りないからもつと昂揚しなければならぬといふ聲を聞くこと、それ自身が心外に堪えない次第であります。

米國の假面を剥ぐ

前毎日新聞社
ニューヨーク支局長

高田市太郎

慘虐性は米國人の國民性

私はニューヨークのイースト監禁所に監禁されて居りました。鬼畜に劣るアメリカの慘虐振り、暴虐振りを聞くにつれまして、私達の全身の血はたぎる思ひが致すのであります。

一體又アメリカ人といふものはどうしてこんなに慘虐、残忍な性格を持つて居るだらうと誰でも一應は疑問を持つてありませう。私達の道德的規範から考へます時にガダルカナル島でアメリカの兵隊が足腰も起たぬ、我が傷病兵を百何十トンといふローラーで輓き殺したり、或は機銃掃射を浴びせたり、或は海を泳いで逃げて行く漁船の漁夫を丸で射的の練習をするやうに狙ひ撃ちをして居る。或は我が重傷の兵隊を針金で縛つて海に投げ込むといふやうな鬼畜振りを聞かされた時、私達は本當に信じられない、日本人なら本當に信じられないのであります。

處がアメリカ人の鬼畜振り残忍振りといふのは大東亞戦争が始つて初めて現はれたのではないのであります。彼等の惨虐性、残忍性は持つて生れた國民性であります。私達同胞が交換船に乗る前に男も女も何の温か味もなく、皆丸裸にされ、腋の下、足の指の間迄も限なく検査され、男は四つン遣ひにされて〇〇を検査された。こんな惨虐な虐待振りはアメリカ人に取つては何でもない、朝飯前である。彼等は昔からこれ以上に本當に鬼畜に劣る惨虐振りを日常の生活に於て發揮して居たのであります。何も有色人種だけを虐める譯ではない。彼等は自分の利害に反すれば有らゆるものに迫害を加へて惨虐振りを發揮するのであります。

血で彩られたアメリカの歴史

アメリカの歴史を緋けば地獄に等しい彼等の惨虐の頁が繰り擴げられるのであります。アメリカ人はユダヤ人、ドイツ人、オランダ人、イタリア人、スカンチナビヤ人、それから支那人、日本人、と次ぎ次ぎに焼打ち、虐殺、迫害等有らゆる暴虐の限りを盡して來て居ります。イタリア人や、ドイツ人も昔焼打や虐殺をされました。支那人などは今はアメリカの同盟國扱ひにされて、ちやほやされて居りますが、日本人よりも十數年前に虐殺をされたことが随分ある。數十人の支那人が何千トンかの船に乗せられて消えて無くなれと太平洋上に突落された例もあります。支那人は今から六

十年前、支那人排斥移民法に依つて劣等國の烙印を捺されて居ります。現在では日本人と同様にアメリカに入國することが禁ぜられ、アメリカの市民權、領土權を奪はれ、アメリカの土地を所有すること一切の社會的、法律的地位を剝奪されて居るのであります。その實情を知つてか、知らずか、宋美齡といふ、出しやばり女が先般アメリカの議會で演説をやつて、支那とアメリカの百六十年の友好關係を讚美して居る。私は宋美齡の國籍を疑はざるを得ないのであります。アメリカは日本を叩く爲に支那を踏臺にせんが爲に逃げられては大變だと云つて支那を大事にして居る。知つてか、知らないでか、アメリカの踏臺になつて喜んで居る重慶政權こそ誠に御芽出度い次第であります。私は今から二十年前に渡米しました。忘れもせぬ十九年前の千九百二十四年に排日移民法に依つて彼等は我々に劣等國民の烙印を捺したのであります。その時に既に私は當然彼等を膺懲してゐてよかつたと思ふ。それを我々は隠忍十九年、今迄勘忍袋を抑へて居つた。到頭彼等は我々の息の根を止めようとしたので我々は勘忍袋を自然爆發してしまつたのであります。

奴隸賣買の創始者アメリカ人

アメリカの是迄の鬼畜行爲の典型的なものを少し御話したいと思ふ。それはアメリカに於ける黑人の問題であります。アメリカには今人口一億三千萬の一割、千三百萬人の黒人が居ります。此の

黒人はアフリカから奴隸船に乗せられて持つて來られたのであります。その奴隸賣買といふことは誰が始めたかといふと米英人でありませう。それ迄は奴隸賣買といふものは世界になかつた。それをアメリカ人とイギリス人が始めたのであります。アフリカに於て彼等は丸で兎か、猫でも狩るやうに黒人を狩り集めた。鐵砲を持ち繩を持つて彼等を狩り立てた、是等の黒人は決して獐猛な土人にはなかつた、彼等は大工もあり、左官もあり、或は菓子屋もあり、自宅に於て細工をする連中も居つた、詰り平和な土着の民であつた。それがアメリカ人が鐵砲を持つて狩り集めたので逃げる者をこづいたり或る場合には殺したり、さういふやうにして狩り集めた黒人を二人づゝ鎖に縛つて、奴隸船に乗せて、それも黒人がやつと入る小さな船に三百人、四百人と積込んで、さうて一月、二月、三月掛つてアメリカへ持つて來て一人當り數ドル、アメリカに着けば數百ドルから千五百ドル位になる。斯ういふ風にして一年の間に、四、五回往復すれば今の金でアメリカの百萬ドル、日本の金で言へば數百萬圓の金が儲かる。而も黒人は奴隸船で鎖で繋がれて風に曝され雨に曝され糞も小便も船の中で垂れ放しであります。それですから奴隸船が大西洋上を通れば五、六哩先、詰り八キロ、十キロ前方から臭氣が鼻を衝いて嘔吐を催すといふやうな状態であつた。ですから奴隸船が二三遍往復するとその船は使へなくなるといふ風であつて、その奴隸船は捨ててしまふやうな状態でありました。

牛馬にも劣る黒人の境遇

さうしてアメリカに連れて來まして南部諸州あたりに持つて行つて棉花、砂糖、珈琲、色々なものを栽培させた。併しその扱ひも牛馬同様であります。朝は鎖に繋がれた儘小屋から出して鞭で叩きながら労働させ、食物といふものは丸で牛や馬に與へるやうなものを與へて居つた。夜になれば奴隸小屋に入れられて鍵を掛けてしまふ。さうして土地を賣る時にはその黒人附で賣つてしまふ。さうして是等の黒人は牛馬の如く動物扱ひにされて居る。その黒人はユダヤ系の大統領であるアラハム・リンカーンに依つて解放された。所謂南北戦争に依つて奴隸は解放されたのであります。併しながら是はほんの法律だけのことである。理論上の解放でありまして、現在千三百萬の黒人は全く奴隸扱ひをされて居るのであります。

私は全米を何回も歩き廻りました。産物の多い南部諸州にも参りました。世界で一番富んで居る國、而も自由平等を賣物にして居るアメリカでこんなひどい所があるかと思ふと驚くばかりである。ニューヨーク、サンフランシスコ、或はシカゴあたりで二十階、三十階、百階の家が櫛比して並んで居る、さういふ所に行けば一應誰も眼を奪はれる。處がアメリカの眞中に行くとそこには最も不自由、不平等なアメリカの正體が見られるのであります。今黒人は奴隸同様になつて居る。白

人とは一切合切有らゆる場合に同席を許されないのであります。南部諸州へ参りまして、汽車で旅行すると、黒人が汽車に乗る場合には切符を賣る場所が別になつて居る。「黒人のみ」と書いてある。切符を買ふ入口から別である。町へ行つて歩いて見ても黒人は絶対に白人のホテルには泊めない。料亭には入れない。映畫も觀せない。病院にも入れない。圖書館も見せない。教會にも入れない。教會に入れないのは南部諸州ばかりでなく、ニューヨーク、全米到る處である。神様の前に於ても黒人は人間扱ひにされて居ないのであります。ニューヨークあたりでも澤山の黒人が居りますが、是は極めて劣等な労働ばかり強ひられて居る。公園などに行つても黒人の多いシカゴ、シンシナチイその他の土地に行つても黒人は公園に入れない。入つて行けば棍棒やピストルで嚇かされるといふ實情が現在でも續いて居るのであります。それから黒人は白人の料亭に入つて絶対飯は食へない。私の知つて居る黒人の指導者がニューヨークの有名な料亭に入つた。出て行けとは言はない。彼は一時間待たされた、一時間待つてウエーターが注文を取りに來た。これで食へるかと思つたら又一二時間待たされてやつと食事が出た。それ迄三時間掛つた。アメリカでは食卓に大抵水を持つて來るが、その水も何か洗つた汚れた水である。珈琲には鹽が入つて居る。スープも鹽が入つて居る。こんなことをするのだから黒人は二度と行きません。實に意地穢い、意地悪い扱ひをして黒人を有らゆる方面から排斥して居るのであります。

白晝巡查が先立ちて黒人虐殺

アメリカでは有名なリンチといふのがあります。法律の手を借らないで暴徒が黒人を私刑に處するのであります。是は世界の何處にもないアメリカの典型的な残忍性、慘虐性の見本であります。黒人が白人の近所に引越して來て氣に食はぬと出て行けと云ふ。出て行かなければピストルで殺すとか、町の者が寄つてたかつて引きづり廻して焼き殺してしまふ、色々なことをする。黒人がこれを裁判所に訴へても裁判官は全部アメリカ人ですから結局黒人が負ける。黒人がちよつと何か氣に食はないことをしたとか、或はアメリカの娘を襲つたといふやうな噂が立つと黒人を引摺り出して木に吊して殺してしまつたり、或は喧嘩か何かの嫌疑で無實の罪で監獄に入つて來る、それを巡查が先に立つて殺して居る。監獄から黒人を引摺り出し、頸に鎖を掛けて自動車の後縛り付けて町中を引摺り廻して居ります。黒人は二三分もすれば着物がずたずたに切れる。息が絶えてしまふ。半死半生であります。それを子供や女や老人がわい／＼喝采しながら跟いて來る。さうして町はづれに連れて行つて木の枝に吊して石油を掛けてちり／＼焼くのです。男も女も子供も老人もそれを見ながら歡聲を上げるのであります。私は斯ういふ黒人のリンチの寫眞を數十枚持つて居ります。數十人の群集を前にしてちり／＼焼いて居る。それを見ながら歡聲を上げて居る。綺麗な女の人が

笑ひながら之を見て居る寫眞を私は持つて居る。斯ういふことは世界の何處に行つてもない。その爲に黒人が今迄に三千五百人殺されて居る。女もその中に含まれて居る。さうして又白人其他異人種が千五百人ばかり殺されて居る。これが僅に一件位なら勿論何處にもあり得ると言へるでせう。處が何千何百といふ人間が毎年繰返してやられて居る。而も夜陰に乗じてやるものならば宜しい。彼等は白晝やる。或る場合には明日何時何分、黒人を私刑に處するといふことを新聞に廣告をして置いてやる。現場には新聞記者が行つて寫眞を取り、之を官憲が知らぬ顔して居る。或る場合には巡査が先に立つてやつて居ることさへあります。是が自由平等を強調する所のアメリカの正體であります。

私は日本人が虐待を受けた事實などまだ澤山知つて居りますが、ほんのアメリカ人の残忍性、惨虐性の片鱗だけを申上げたのでありますが、私達は斯ういふ世界の何處にもない本當に悪魔性、鬼畜性のアメリカと戦つて居るのであります。これが我が將兵を輓き殺したといふやうなことは我々から見れば實に憎んでも憎み切れないひどいやり方ではありますが、彼等にして見れば何でもないと言へるのであります。斯ういふ相手を敵として私達は今戦つて居るのであります。ルーズベルトは日本人を宇宙から全部拂拭しなければ已まないと言つて居ります。我々も米英を拂拭する迄は斷じて矛を収めてはならぬ。米英斷じて假借すべからずであります。

開戦前後のルーズベルト

朝日新聞社
政経部次長

河野健治

日獨伊三國同盟と米國一般の戦争氣構へ

私は昭和十五年ベルリンに於きまして、我が日本がドイツ、イタリヤと彼の歴史的三國條約を締結した實情を親しく見る機會を得まして、その直後ワシントン轉任の命令を受けたのであります。私はワシントン行の國際電話を耳に致しました時に、私の直感では、あゝこれでは一年半位の間に必ずや日本とアメリカとの間に戦争が起る、これは私が三國條約締結の直後得ました私自身の直感であつたのであります。私はこのワシントン行の命を受けました時に、率直に私の感じを申すことを許されますならば、私は歐洲といふ楽しい所からアメリカと云ふ監獄に行かなければならぬといふ命令を受つたと同じやうな感じであつたのであります。當時私は未だに記憶して居りますが、たしかモスコのハプターであつたと思ひますが、此の三國條約の締結を批評を致しまして、

日本が獨伊と樞軸關係を更に深くして、而して一方に於てはアメリカとイギリス、フランスが組んで居る、世界の國際關係は、完全に二つの大きなブロックに分れた、併しながらソ聯はこの世界に於ける二つのブロックの何れにも屬せず、殊に自身の將來の國策に牽制を受け、その支配を受けるやうな約束はしないのであると言つてゐるのであります。私はベルリンに居りまして、これは容易ならぬ世界の情勢が次々に發展するであらうといふことを痛感しましたが、現實に大西洋を渡つてアメリカに行つて見ますと、私が當時ヨーロッパに於て感じて居りましたやうな、そんな生濫い日米關係ではなかつたのであります。私がワシントンに行きましたのは、丁度野村大使が着かれまゝす約一箇月前でありましたが、行つて新聞雜誌を見ますと、皆日米戦争のことばかり書いて居ります。それは實に詳細な數字を掲げまして、どの島からどの島へは何溼あるといふこと迄、實に克明に書きまして、而も日本の軍事上の要地を書きまして、専門家も議論をする、何も餘り知らぬやうな政治家も議論する、全く日米戦争の議論の眞中に私はワシントンに行つたのであります。抑もこれは昨年や一昨年に始つたことではありませんが、私のヨーロッパに於て見て居りました時のアメリカのヨーロッパに於ける活躍を見ますならば、自ら頷けるところであります。

日本の大陸發展を阻止する米國

話は遡りますが、支那事變、蘆溝橋事件の直後、私は約一箇年北支に居つたのであります。其北支に居りました時に、今でも記憶して居りますが、千九百三十七年、丁度あの事變の起りました昭和十二年十月だと思ひますが、ルーズベルトはシカゴに於て日本を傳染病患者に例へまして、傳染病患者といふものは全世界から之を隔離してしまはなければならぬといふ有名な演説をして居ります。これは一面から見ますと、日本に對する一種の宣戰布告であつたと今では見て居るのであります。このルーズベルトは、日本に對しまして、あの歐洲大戰が起ります千九百三十九年の九月から約一箇月ちよつと前に、御承知のやうに昭和十四年七月二十六日に一方的に日米通商條約の廢棄通告を致して居ります。これはこのシカゴの演説が更に發展致しまして、其の後の支那事變に於ける日本の執つた態度に對して、アメリカがはつきり反對であるといふことをルーズベルトが示しました所の非常に強硬な外交處置であります。即ち日本に對する宣戰布告も同様であつたのであります。ルーズベルトは、斯くの如く日本が大陸に於て發展し、膨張して行く政策には絶えず反對の政策を取つて居るのであります。日露戦争後の日米外交史を御覽になると、其の以後の日米關係は、日本の大陸發展を阻止する一つの歴史であると言つてよいのであります。そのルーズベルトの下に

は、所謂アメリカには國務省といふものがありました、其の國務省には今アメリカの陸軍長官をして居るスチムソンの部下のホームベック、これはフーバー大統領時代に極東部長をしてゐた男であります、このホームベック一派を巨魁と致しまして、日本膺懲派とでも申しますか、アメリカは何時か東亞に於て日本を叩き付けてやらなければならん、日本の發展をどうかして一度は叩き付けてやらなければならん、斯ういふはつきりした考を以て居る若干の事務官連が居るのであります、結局斯ういふやうな者の主張に於てルーズベルトは日本に對する對策を左右されて居るのであります。それでルーズベルトは日本に對しましては今申しましたやうな政策を次々に取つて來て居ります。

ヴェルサイユ體制の維持に狂奔

さてヨーロッパに於きましては、千九百三十三年、ドイツには既にナチス政權が出來て居ります。ナチスが政權を執りまして、三、四年しますといふと、ヨーロッパに於てヴェルサイユ條約で出來上つた所の既存の政治上の關係といふものは、色々な方面に具體的に破綻を起しまして、さうしてヨーロッパに於ける戦争と言ひますか、國際紛争の起るのが非常に接近して參りました。支那事變が起りました頃に前後しまして、千九百三十七年、三十八年頃、ルーズベルトは、結局ヨーロッパに於て、現状を打破せんとするドイツと、現状の儘、詰りベルリン條約態勢を維持して行かうとするフランス及び其の後に控えるイギリス等との間に必ず戦争が起るといふことをはつきり認識しまして、ルーズベルトは歐洲に一度戦争が起れば、イギリスとフランスをがちり背後から聲援してやる、或時は金と物とで應援してやつて、さうしてドイツがヨーロッパ大陸に於て餘り大きくならぬ中に、積極的にこちらから進んで叩き付けてしまはふといふやうな政策を千九百三十七年頃から執つて居るのであります。ところが、千九百三十九年にヨーロッパに戦争が起りまして、ドイツがポーランドを席捲し、更にユーゴスラビヤ、バルカン方面に進出しました。フランス、イギリスと同じやうな方向に居りました所謂デモクラシー側の國家の持つて居りました色々な機密文書を手に入れて調べて見ますと、ルーズベルトは、千九百三十五年でありましたが、ソ聯邦と國交恢復を致しました時にソ聯に送りましたウイリヤム・ブリーツトといふ大使が居ります。これが後にパリーのアメリカ大使として、轉任しまして、ヨーロッパ戦争が起る前の千九百三十八年頃から居りますが、ルーズベルトはこのブリーツトをヨーロッパに於ける自分の代理者と申しますか、手先としまして、年寄で案外濃厚なハル國務長官を抜にしまして、直接度々國際電話を掛けたと云ふことであります。ワシントンとパリーの間で國際電話でブリーツトをルーズベルト自身が指揮しまして、其の當時ヨーロッパでは戦争が起るか起らんかといふことが非常に重大な關係を持つて

ツパに於て、現状を打破せんとするドイツと、現状の儘、詰りベルリン條約態勢を維持して行かうとするフランス及び其の後に控えるイギリス等との間に必ず戦争が起るといふことをはつきり認識しまして、ルーズベルトは歐洲に一度戦争が起れば、イギリスとフランスをがちり背後から聲援してやる、或時は金と物とで應援してやつて、さうしてドイツがヨーロッパ大陸に於て餘り大きくならぬ中に、積極的にこちらから進んで叩き付けてしまはふといふやうな政策を千九百三十七年頃から執つて居るのであります。ところが、千九百三十九年にヨーロッパに戦争が起りまして、ドイツがポーランドを席捲し、更にユーゴスラビヤ、バルカン方面に進出しました。フランス、イギリスと同じやうな方向に居りました所謂デモクラシー側の國家の持つて居りました色々な機密文書を手に入れて調べて見ますと、ルーズベルトは、千九百三十五年でありましたが、ソ聯邦と國交恢復を致しました時にソ聯に送りましたウイリヤム・ブリーツトといふ大使が居ります。これが後にパリーのアメリカ大使として、轉任しまして、ヨーロッパ戦争が起る前の千九百三十八年頃から居りますが、ルーズベルトはこのブリーツトをヨーロッパに於ける自分の代理者と申しますか、手先としまして、年寄で案外濃厚なハル國務長官を抜にしまして、直接度々國際電話を掛けたと云ふことであります。ワシントンとパリーの間で國際電話でブリーツトをルーズベルト自身が指揮しまして、其の當時ヨーロッパでは戦争が起るか起らんかといふことが非常に重大な關係を持つて

居つたのでありますが、ルーズベルトはフランス、或はポーランド等に駐在して居るアメリカの大使をブリットを通して指揮しまして、例へばポーランドにフィデルといふ大使が居りましたが、これがブリットの指揮を受けまして、ポーランドがドイツとの外交交渉に依つて、平和的に懸案を解決せぬやう、このアメリカの大使の暗躍に依つて措置して居たといふやうな證據文献も現れて居ります。更にブリット自身が、パリに居りまして、その當時フランスの總理でありました所のダラジエや外務大臣のペンネットを説きまして、盛んにドイツと妥協しないやうな政策を執ることを勧めて居ります。若し戦争となつた時には、勿論アメリカは参戦するといふことまで言つて、さうしてフランスの對獨強硬政策と云ふものを煽動して居りました。更に又パリに居りますポーランドの大使などに對しましては、これ亦ドイツと妥協させないやうにし、戦争になつたらアメリカも勿論戦争に参加する、斯ういふやうなことを言つて居つたのであります。その外交文書が今ドイツ側の手に入つて居ります。斯ういふやうな實狀であるのであります。

英の對獨融和政策に不満

又實際の問題としましても、我々がヨーロッパに於て見ましたルーズベルトといふものは、日本に對してはさつき申し上げましたやうに宣戰布告にも等しい所の日米通商條約の廢棄通告をやつて居

りますと同時に、ヨーロッパに於ては、ヨーロッパ戦争の起らぬこと、即ちドイツが餘り強くならない中に、之を叩き付けようといふことをルーズベルト自身の大きな外交政策としてやつて居る。更に進みまして、ヨーロッパで初めて戦争の危機に直面したのは千九百三十八年（昭和十三年）九月のズデーテン問題であります。あのズデーテンの危機に際しまして、チェンバレンはドイツに飛行機で飛んで行つて、ヒットラーと直接交渉をして當時の危機を救つた。このチェンバレンの歐洲の危機を救つた政策といふものは、イギリスに於ては全面的な歓迎を受けたにも拘らず、大西洋を距つたアメリカに於きましては、非常に不評であつた。而も單に不評であつただけではありません。ルーズベルトにはその頃、歐洲に必ず戦争が起ると云ふ見込が付いて居りますから、チェンバレンのやうにドイツに對して腰の弱いことでは戦争の指導は出來ないといふので、ルーズベルト自身を中心となりまして、チャーチル、イーデン、その他英國の保守黨、右翼の政治家と連絡しまして、既に千九百三十九年後半から、チャーチルを戦時内閣の總理にする畫策をして居つたのであります。併しながら、ルーズベルトが抱いて居りました世界政策と言ひますか、世界制覇の一つの希望といふものは、現實には戦争が起りまして、先づドイツとポーランドの間に開戦があり、而も其の間に獨ソ不侵略協定が出來、獨波戦争の後半に於ては、ドイツ軍はポーランドに入り込んで之を軍事的に分割してしまつた。更に翌年にはあの難攻不落を謳はれましたマチノ線と云ふものに直接向はな

いで、ベルギー國境の近く、マチノ線と言ひましても少し手薄な所から怒濤の如くフランスに入り込んで、我々の記憶に新たなる通り誠に壓倒的に見事な勝利を得て、さうしてフランスは實にたあいもなく單獨降伏をしたのであります。

佛の單獨講和に大狼狽

このフランスの單獨講和を見まして、ルーズベルトは全く驚いてしまつた。丁度私がヨーロッパからワシントンに行きました頃はこの後でありまして、ドイツはこのフランスの單獨講和の後、日本に於ても歐洲の作戰を非常に氣に掛けて見て居られたことと思ひますが、詰り對英上陸作戰を敢行すべく、對英爆撃作戰をやりました。けれども、あの千九百四十年には遂にドイツも對英上陸作戰に成功しないで、千九百四十一年（昭和十六年）の春を迎へまして、丁度私はドイツの對英上陸作戰が成功しないあの直後にヨーロッパからアメリカに渡つたのでありますが、アメリカに行つて見ますといふと、アメリカではあの時は、詰りドイツの對英上陸作戰が大體に於て成功するものと見て居りましたので、非常に周章狼狽しました。さうしてフランスが單獨降伏しますと、實はアメリカではその當時大海軍を造るとか、又陸軍も其の當時非常に小さいもので二十萬程度でありましたが、それを大きくするといふので五十億ドルと云ふやうな金を投じまして、相當、歴大な國防計

畫を立てて居つたのであります。やつて見て居りますと、ドイツの對英上陸作戰が成功しなかつた。丁度私がワシントンに渡りました頃は、ドイツの對英攻略が成功しない中に何とかしてアメリカはイギリスに有らゆる援助を與へて、イギリスを助けてやらう、詰りイギリスに物と金とをやつてイギリスを助けるといふことは、もう歐洲戦争が起りました時から、フランス、イギリスを直ちに助けるといふ本質からその政策を執つたのであります。詰りイギリス本土に於てアメリカの戦争をやつて呉れて居るのであるから、イギリスに物と金とを送つて、助けてやらう、斯ういふやうな議論を政府詰りルーズベルトは立てまして、對英武器貸與法と云ふ妙な法律を議會で作つたのであります。これは大統領に非常な権限を與へまして、大統領がアメリカの國防の爲に必要と思ふ時は如何なる援助でもなし得る、詰りアメリカの持つて居ります所の主力艦を一隻イギリスに與へてやることも出来る、それを貸してやることも出来る、逆にアメリカの近海で、勿論その時は戦争が始つて居りますから、例へばドイツの潜水艦とイギリスの巡洋艦とが撃ち合ひまして、イギリスの巡洋艦が損害を受けたとしますと、それはアメリカのドックで簡単に修理してやる、その他單に武器彈藥を呉れてやるだけでない、イギリスに取つて必要な食糧品まで與へてやる、それがアメリカの國防上必要と大統領が認めた場合にはどうにでも出来るといふ大きな法律が出来まして、さうして助けて居つたのであります。丁度アメリカが國策として對英援助をやつて居りました時にぶつか

りました大きな問題が日米關係なのであります。最初に申しました通りに、日獨伊の三國同盟に依りまして、若しアメリカと獨伊との間に大西洋に於きまして戦争が起つた場合には、あの規定に依りますと、日本は獨伊に對して第三條の規定に依りますと、政治上、軍事上、經濟上、有らゆる援助をしなければならぬといふことになつて居ります。それでありませうから、その當時ヨーロッパに於きまして、大西洋で獨伊と戦争状態になつても、アメリカとしては決して不安はない、併しなから獨伊と戦争になるといふことに依つて、日本と戦争するといふことは、アメリカは計畫だけで、まだ大西、太平洋艦隊が出来て居る譯でありませうから、アメリカとしては大西洋、太平洋に、ドイツ、イタリア、日本といふやうな大きな敵を持つと云ふことは避けなければならぬ、さういふ譯で、ルーズベルトとしてはどうしても日本と話合をして、非常に蟲のよい話であります、大西で戦争になつても太平洋で日米間に撃ち合が起らないやうにしよう、斯ういふ魂膽からルーズベルトは着任早々の野村大使と所謂日米會談を始めた、斯ういふ工合に私はワシントンに居つて見て居つたのであります。

平和の假面にかくれて對日戦争準備

併しながらルーズベルトは日本に對しては、斯くの如く平和的な手段で、日米關係を調整しよう

と言ひながら、日本に對する戦争準備といふものは決して怠らない、野村大使が着かれたのは一昨年の紀元節の日でありましたが、是より一月前に、ルーズベルトはアメリカの艦隊の編成替をして居ります。さうして對日一戰辭せずと日頃豪語して居つたのであります。キンメルを、リチャードの後任として拔擢しまして、太平洋艦隊司令長官にした。斯ういふやうに人的關係でも日本との戦争の準備をして居つたのであります。更に二月になりますと、野村大使が着きました頃は、グアム、サモアなど太平洋に散在して居る所のアメリカの海軍基地、飛行機基地、潜水艦基地、斯ういふものを強化する爲に議會に四億弗の豫算を出して、これが通つて居ります。このグアムといふのは地圖を見ると分りますやうに東京迄千五百哩、サンフランシスコから東京迄五千哩ありますが、グアムはさういふやうに非常に東京に近い地位にあります。

それでアメリカの議會は、以前に於きましては、海軍がどん／＼豫算を計上して来るけれども、それは日本を刺戟するからいけないと言つて否決して居つたのであります、野村大使が來られた時には、さういふやうな日本に對する遠慮會釋なんかして居る時ではないといふので直ぐ通つてしまつた。更に進んで主なる事件だけを申し上げますと、五月にアメリカは重慶支那に對して一億ドルの武器貸與法に依る援助をして居ります。其の中の一部には昆明からビルマに行く鐵道の建設材料もあつて、之を發表しました時には、建設材料の第一回に送る部分は、既にビルマに達して居る

といふやうなことを迄言つて居つた程であります。併し之と前後しまして、勿論日米交渉といふものはハル國務長官と野村大使の間に進められたのでありますが、日本に於きましても日本と佛印との間に、協定が出来まして、日本の兵隊が佛印の北部から南部に移駐した。さうしますと非常にハルは怒りまして、平和交渉中に日本は兵隊を佛印の南方迄進駐した。日本と平和的に話をしてゐるのにそんなことではもう話は出来ないと怒つた。しかしさつき申上げました通り彼は廣く大きく日本包圍の色々な戦争準備をして居つたのであります。

資金凍結による實質上の宣戰布告

さうして結局日本に對して何をしたかといふと、日本に對して資金凍結をした。資金凍結などといふことはそれ以前迄は我々も簡單に考へて居つた。我々アメリカには金は持つて居りませんが、其の金を使ふには、例へば銀行に預金でもあれば、それを引出して使ふには大藏省の許可が要る位に考へて居りましたが、併し愈々あの資金凍結が出ますと、なか／＼生やさしいものではなかつた。例へばあの法律が出ると、ニューヨークにある日本の大きな銀行會社の店に、朝早くから聯邦準備銀行の連中が行つて、有りと有らゆる帳簿を出せと要求しまして、それ等を調べまして朝から晩迄その辨當代迄日本の會社や銀行に持たせながら、日本の銀行、會社の帳簿の全部を調べ上げた。

それに依つて日本とアメリカとは御承知のやうな貿易關係にありましたから、アメリカ、主としてニューヨークであります。アメリカを中心として、日本が過去何十年間に於て取引しました取引關係といふものがすっかり分つてしまつた。さうしますと日本と取引をして居るアメリカの會社も困る、個人の店も困る。アメリカから合衆國だけではありません。中南米を通じて日本と取引して居る各商社が困る。それと同時に中南米に、日本人の名前で日本人の商社であることが明かになつて居るものもあります。同時にペルー人の名前で日本の商社であるものもある。さういふことがすっかり分ります。さうすると國務省がブラックリストを作つて、これこれの商社とはアメリカは取引をしてならんと言ふ。斯ういふやうに、日米通商條約廢棄よりも更に進んで、完全に日本と取引をしない所ではない。日本の通商を破壊する、日本の取引の組織なり、日本と取引をして居る關係者といふものの、其の他の關係、組織といふものをすっかり壊してしまふといふ、完全な日本の通商破壊戦を向ふはやりました。

斯うなりますと日米交渉といふものは、進むものでありません。併しながら日本は更に、現實に太平洋の危機が強化して來て居りますので、當時の近衛首相がルーズベルトにメッセージを送り、さうして更に太平洋會議をやらうといふやうな話があつた。處がアメリカ側は日本に資金凍結の法律を適用しました頃から、大體に於て日本とは話は出来ない、又無理をしてやる必要もないといふ

支離滅裂な戦争宣傳

ルーズベルトも戦争前に、自分で直接さういふことは言へませんが、自分の乾分たる上院議員その他を通して、日本と戦争の場合は三週間長くても六ヶ月位で片付けるといふことを言つて居つた手前、その後の戦争の實相は殆んど全體としては知らせない、個別的には色々な戦争の模様は知らせますけれども、全部としては知らせない、同時に國民に對しては、アメリカは飛行機、船、戦車、高射砲、を造つて、軍需生産をどん／＼して、それが一定の目標に達すれば、日本とドイツに對して反攻作戦をなし得て、さうして結局日本に勝つのだ、斯ういふやうなことをルーズベルトは言ふかと思ふと、又一面に於きましては、これは去年の四月頃と思ひますが、日本との戦争に勝つか負けるかは、あと二三年やつて見なければ分らん、斯ういふやうなことを言つて居る。何故さういふことを言ふかといふと、ルーズベルトとしては、アメリカの大衆に、日本との戦争といふものは相當重大で、アメリカとしてはさう簡単に行くものではない、アメリカの國民は今迄の宣傳で日本を弱く見て居りますから、なか／＼それに乗つて來ない、ルーズベルトはなか／＼狡猾ですから、時時さういふことを言つて、國民を政府の戦争指導の方針に従ひ易くもしなければならぬので、斯ういふやうな、ことをやつて來て居ります。さういふやうな方針で、千九百四十四年には、アメリカ

として軍需生産の目標として居る所が大體出來上つて、それから反攻作戦をやらうといふやうなことを初めは言つて居りましたけれども、さうして居りますと、日本の方がどん／＼進んで來る。アメリカでも結局攻勢を取らなければ日本との戦争には勝てぬといふやうな意見が起つて來る結果、ルーズベルトもふら／＼になつて去年の八月に、太平洋に於てソロモン、ニューギニア反攻作戦をやつて來ましたが、約半年位やつて見ますと、なか／＼アメリカとしては犠牲の多い戦争になつて來る。そして最近一月頃あたりから、アメリカの言つて居るのを聞いて見ますと、結局あの太平洋の島を一ツ／＼取つて行くのは、なか／＼容易の業ではない、犠牲も非常に多い、それよりも日本の本土を飛行機で衝くのが宜しいと言つて居ります。ルーズベルトも言つて居りますし、アメリカの太平洋方面の司令長官などは、必ず日本本土に空から爆弾の雨を降らしてやるといふことを盛んに言つて、日本に對する攻勢の意圖のあることを盛んに言つて居る。併しながら、これはさう簡単に出來るものではありません。日本に對する空襲を敢行するとしても、重慶支那の奥地から飛んで來るとしますと、さう大きな爆弾は持つて來られない、又アリューシャンから來るとしても是にも制限がある。航空母艦で來るとしても、航空母艦はアメリカにそんな澤山残つてゐる譯ではない。さういふやうなことがありまして、ルーズベルトは、ぎやア／＼言つて居りますが、日本に對する空の攻勢を取るのもさう容易ではないと思ひます。

戰爭中に戦後の世界經營を宣傳

更に我々が最も注意しなければならんことは、ルーズベルトはまだ勝ちもせん戦争の先のことを最近喋つて居る。何を喋つて居るかといふと、結局戦後の平和恢復、戦後の世界をどうするかといふことを、ルーズベルトは副大統領に語つて居ります。その一二を拾つて見ますと、結局樞軸國を最後迄叩き付けなければならんといふことを言つて居る。平和の機構として米英聯合側は、一切の經濟戦争の起るやうなことを將來防止することを考へなければならん、それと關聯して國際裁判所といふやうなことも考へなければならん、是迄は宜しいのでありますが、更に進んで日本、ドイツ、イタリアの國民が再び侵略的の考を起さないやうに、教育制度まで改革し監視して、日本人、ドイツ人等に心理的の武装解除をする。心理的の武装解除とは、彼等が再び侵略行爲をしないやうに、教育まで監視をし更に進んで日本に對して、あらゆる日本の軍備といふものの撤廢を要求すると同時に、是は滑稽千萬でありますが、日本に勝つた場合には、日本の陸海軍と云ふものを全部解體して、少くとも日本の六大都市位は、米英兵が之を占領して守護しなければならんと言つてゐる。これに至つては、實におこがましいが、併しながら彼等が考へて居る心の底を想像して見ますと、我々としては大いに考へなければぬ點があるのではないかと思ひます。結局私はそのルーズ

ベルトの考へは、結局千九百三十七年ルーズベルトが政權を取りまして、國內の經濟改革、社會改革、所謂ニューディールに依つてやりまして、それが餘り成功しない。其の頃に、國際情勢の大きな變化に遭遇しまして、巧みに其の方に轉換しまして、ルーズベルトは世界制覇の野望といふものを、東洋及びヨーロッパに、さつきもその一端を上げましたが、さう云ふ野望の計畫を立てまして、さうしてそれを着々と實施してゐる。千九百三十七年七月二十六日には、もう既に日本に對して資金凍結をして宣戰布告をして居る。さういふ工合に、ルーズベルトは將來東亞に於ては日本、ヨーロッパに於てはドイツを、出来ることなら、自分が直接血を流さないで、東洋に於ては支那人をして、ヨーロッパに於てはイギリス人、フランス人をして血を流させて、之を押へようとした。どつこいさうは行かない。それで今ルーズベルトは之を自分で刈り取らなければならん。而もこのルーズベルトの抱いて居ります世界征服の野心は、最近の世界戦後の平和外交を彼が話すやうになつてからその馬脚を現して居る觀がありますが、結局何にその基礎を置くかといふと物質主義的であるアメリカ人が現在取つて居ります所の日常生活様式、それは非常に贅澤なものであります。その生活様式といふものを、自分の子、孫の時代迄、數世紀に亘つて安全に確保して行かう、その爲に單に中南米のアメリカだけでは満足せず、更に太平洋に手を延ばして、佐藤軍務局長が言はれましたやうに、正に歐洲の遺産をまだ死人が遺言を書かんに取らうとして居る、結局さういふや

うな國際的な利己主義的なアメリカの政策と、ルーズベルトの個人的の野望を結付けまして、さうして自分自身が十年間政權を取つて居ります。あのアメリカのワシントンのホワイトハウスに於て、日本及びドイツに對する政策を取つて居るのであります。

是が非でも勝ち抜く覺悟

私は考へますが、結局この戦争といふものは、我々としては食ふか食はれるかの戦争である。さうして戦後まで参つたと言はぬ國民は、日本とアメリカと比較して見ますと、私は間違ひなく日本であると思ひます。我々に對して將來一年或は二年このアメリカが日本に對して反攻を企圖するであらませう。併し、日本はアメリカの反攻を徹底的に退ける。言葉を換へて言ひますと、反攻に日本側にやつて来るものは之を擧殺しにする。而して人的犠牲をアメリカに加へてやる、斯ういふやうな反攻を退りぞける爲に我々が戦ひますこの一、二年といふものは、非常に重大な時に遭遇すると思ひます。さうして更にアメリカがどういふ工合に出て来るかといふことを考へますと、佐藤軍務局長もアメリカ人の性質とか、對日攻略の色々な點に就て、詳細に説明されましたが、アメリカの人種といふものは戦争目標を持つて居りません。アメリカの大衆がさういふやうな人的犠牲、或は物的犠牲を受けましてどう變化して来るか、我々はさういふやうなことを考へながら、最後迄腰

を落ち付けて、アメリカのします所のルーズベルトの遠大な計畫をよく噛みしめながら来るべき反攻を次々に撃推して行くといふ決心をしなければならぬ。最後には結局彼等は悲鳴を上げて、我が軍門に下るであらうことを思ひ、我々はさういふ確信を持つてこの戦争を何所迄も戦ひ抜かなければならぬと思ふのであります。

米國に世界侵略の特権ありや

永井柳太郎

野蠻人對文明人の戦ひ

この度敵國に抑留せられ、身を以て、敵國の暴虐を體驗せられた方々から、其の暴狀を審かに致しまして、實に血沸き、肉躍るの感を禁じ得ないのであります。ルーズベルトは、今回の戦争の勃發に當りまして、米國に對する世界の協力を求むるが爲め、この戦争に適切なる名稱を附することに苦心したのであります。ルーズベルトは、その苦心の結果、今回の戦争を以て、民主主義對獨裁主義の戦争と叫んだのであります。併し民主主義の戦争と叫んだけれども、共産黨の獨裁政治を以て有名なるソ聯邦と同盟しつゝ、尙民主主義を叫ぶことの矛盾を自覺したと見えまして、聽てその名稱を用ひなくなつたのであります。彼は更に昨年七月、米國の青年に對する放送に於て、今回の戦争は、食ふか食はれるかの戦争だと言ひ出したのであります。併しながら私は聲を大にして叫

びたいのであります。米英に於ける未開發の資源を開發し、米英の發展に協力するが爲に、數十年に亘つて挺身し奮闘したアジアの移民を、罪なきに暴壓し、虐待し、甚しきは殺害して憚らざる米英兩國對日本の戦争は、事實に於て、野蠻人對文明人の戦であると言はなければなりません。

英王室特許の奴隸賣買會社

米英兩國人は、世界に於て、異民族に對し、最も殘忍なる國民であります。有名な植民學者のエドワード・ベインは、その著書である「歐洲植民史」の中で、ヨーロッパ人が米國に移住して虐殺したる有色人種の數は約四千萬に達することを自認し、「我等は赤面せずしてこの事實を語る能はず」と斷じて居るのであります。ヨーロッパから移住した米國人の爲に米國の本土に生活して居つた土人、即ち印度人の虐殺されたものは無數でありまして、西印度の島のハイチ島だけでも、僅かに十五箇年に、その土人は六百萬から六萬人に減じたのであります。五十年後には、僅かに二百人となつたのであります。如何に多くの土人が彼等の爲に虐殺されたかを想像し得るのであります。アフリカの黒人を掠奪して、之を米國に輸送して、暴利を貪つた所謂奴隸貿易は、英國の王室によつて特許せられた會社の手に依つて、英國の議會が支出した補助金を受けつゝ、大規模に行はれ、その爲に狩出されたアフリカ人の數は實に數千萬人であります。親をその子より引離し、子をその

親より奪ひ取り、夫をその妻より強奪して、是が爲に残されたる者は悲しみの餘り或は自殺し、或は發狂し、捨てられた孤兒は養育する者なくして死亡し、船に積まれて運搬される途中も虐待に耐えずして、病歿する者續出し、かくて漸く米國に到着した者は、奴隸として獸類に異ならざる虐待を被り、従つて又その多數は短命に終り、かくして、その犠牲者は合計六千萬と計算されて居るのであります。斯くの如き虐殺は獨り米國大陸のみではありません。濠洲大陸に於ても亦同様なることが行はれ、濠洲の土人約百萬と數へられたものの中、今日の濠洲に残存する者僅に二萬であります。ニュージールランドに於けるマオリ族は數十萬と計算されましたが、今日は僅か四萬であります。タスマニヤの土人の如き、英人が移住した當初二十萬を數へられたにも拘らず、今日は唯の一人も生存して居ないのであります。彼等は斯くの如く有色人種を絶滅し、その土地を掠奪せんとするのであります。殘忍なることは驚くべきであります。

有色人種を獸あつかひ

彼等は有色人種を以て劣等人種となし、有色人種を殺害し、虐待し、酷使することは、彼等の特權と考へて居るのであります。私が最近讀みました書物の中に、米國人のチャーレス・キヤロルといふ人の書いた「黒人は獸類にして人間に非ず」といふ文章が載つて居るのであります。その書い

たものを見ますと、科學的研究の結果に依れば、黒人は獸類の進化したものに於て、猿猴の一種なり、恰も獅子が如何に立派に見ゆるも、その本質に於て、猫屬なるが如く、黒人は人間らしく見ゆるれども、猿の一種にして、従つて靈魂を有せず、と書いて居るのであります。日本の移民は、過去數十年に亘つて、米國の未開墾地を開墾する爲に、生命を賭して奮闘した、従つて米國には到る處に日本の移民の無數の墳墓があります、この米國に於ける未開墾地を綠滴たる農園と化するがため犠牲となるを辭せざりし日本の移民を理由なくして、壓迫し、虐待し、甚しきは殺害することを意とせざるが如き彼等米英人、そのものこそ、人間らしく見ゆれども、實は獸類に過ぎず、従つて靈魂を有せずと言はねばならぬのであります。

米英兩國は、その領土の到る處に於てアジア移民を排斥し、アジア移民にして排斥の屈辱を知らざるものはないのでござります。米國は、曩には印度人を虐殺し、黒人を絶滅せんとし、更にその資源の開発の爲に輸入した支那の移民を壓迫したのでござります。支那人に對する排斥は、千八百八十年から始ります。千八百八十八年に至つては、支那の移民を絶對に禁絶する法律を制定し、千九百二年に至つては、之を獨り米國大陸のみだけでなく、その海外領土であるフィリッピン、ハワイ等にも實施することを規定したのであります。支那の移民を禁絶する法律に續いて制定されたものは、我が日本移民に關する法律であります。千九百六年即ち明治三十九年には、先づサンフラン

シスコに於ける日本學童が差別待遇を蒙り、特殊の學校に非ざれば入學することの出来ない侮辱を受けたのであります。引續いて千九百十三年即ち大正二年には、支那の移民に適用する法律は同じく日本の移民にも適用せられることに決し、引續いて千九百二十四年即ち大正十三年には、その前年日本が關東大震災の爲に大打撃を受け、國力が疲弊し、抵抗力が消滅したと見て、日本の移民を絶対に禁止するの法律を制定し、従つて有色人種は擧げて米國大陸から排斥せらるるに至つたのでございます。斯くの如く彼等は、我等有色人種に何の罪科もない、唯皮膚の色が彼等の如く白くないと云ふだけの淺薄なる理由に依つて、我等を彼等の領土から排斥し、我等アジアの移民が開墾した農園は、恣に之を彼等の手に奪ひ取り、而も我々アジア人に對しては何を要求したのであるか。

米國に世界侵略の特權ありや

アジアはアジア人のみのアジアに非ず、世界人類の爲め神の與へたるアジアなれば、門戶解放、機會均等の原則を尊重すべしと叫んで已まなかつたのであります。が、アジアはアジア人のみのアジアに非ず、世界人類の爲めアジアなるが故に、門戶を解放し、機會均等主義を尊重しなければならんならば、米英兩國の廣大なる領土も亦、米英兩國人のみの領土に非ず、世界人類の爲め神の與へた領土であるから、同じく門戶解放、機會均等の原則を尊重すべしと言はなければならぬので

あります。彼等が米英の領土は之を彼等の爲めに壟斷し、而もアジアの資源のみは、之を門戶解放、機會均等の原則に依つて彼等の侵略に委ねんことを要求するが如きは、事實に於て、米英は世界を侵略するの特權を有すると言ふに同じく、かくの如き暴言は、斷じて國際正義の許さざる所であります。日本は一昨年十一月十日の對米回答に於て、この事を明白に主張したのであります。米國が主張する如く、門戶解放、機會均等の原則を尊重すべきであるならば、須らく此の原則を全世界に行ふべし、米國が門戶解放、機會均等の原則を全世界に行ふことに同意するに於ては、日本は之をアジアに行ふことに異議あるものに非ず、然れども門戶解放、機會均等の原則をアジアにのみ強要し、米英は門戶を閉鎖し、異民族排斥を繼續するの特權を留保せんとするが如き不正、不公平な要求に對しては、日本は斷じて承認すること能はずと答へたのであります。この日本の道理ある主張に接した米國政府は、暴力に依るに非ずんば、日本を屈服せしむることが出来ぬことを自覺して、A B C D包圍陣の強化に全力を集中し、我が日本の存立を脅威する目的を以て、經濟封鎖を實行し來つたのでございます。

眞珠灣攻撃は正々堂々の戦ひ

茲に於て我が日本は自存自衛の爲に、十二月八日決然としてハワイの眞珠灣に攻撃を加へて、我

が日本の生存権を明にしたのでありますから、ハワイの眞珠灣を攻撃し、米國の太平洋艦隊を殲滅せしめた日本の行動は、決して米國の不意を襲ふ日本の謀略に非ずして、米國の不正不法なる要求に對して、日本の無言の反駁であると言はなければならぬのであります。敵國の領土には、我が七十萬の同胞が、今この戦争の犠牲となつて、或は抑留せられ或は暴壓せられ、甚しきは數十年の辛苦艱難に耐えて蓄積したる財産を悉く強奪せられて、不毛の土地に移住を強要せられ、實に昔日の奴隸に異ならざる生活に呻吟しつゝあることは我々の衷心より同情に堪えざる所でありますけれども、しかし、これ等の不幸なる境遇にあつて苦しみつゝある我が同胞は、事實に於て、身を以て正義の戦争に協力し、正義の戦争の犠牲となりつゝあるものであります。決して此等の正義の戦士をすてるものでない、此等の同胞は、やがて天と與に勝利の日を迎ふるに相違ありません。除るに天と與にその日を待たれよと、私は海を越えて此等の同胞に叫ばざるを得ないのであります。

米國は日本人の犠牲によつて開發された

顧みますれば、明治元年に百五十三名の我が移民が始めてハワイに渡航し、翌年約四五十名の移民が始めて米國大陸に移住したのであります。爾來今日に至る迄七十年内外の間に、我が日本の移民が米國大陸を開發して彼等に與へたる資源は、實に莫大なるものであります。今日米國が誇とす

る所の農園も、果樹園も、漁場も、多くは此等の日本人の粒々辛苦の結晶に外ならぬのであります。我が日本の移民が此等の米國に於ける資源を開發する中途、犠牲となつて瘞れ、屍を米國に埋めた者は無數であります。私は米國に旅行致しまして、太平洋岸の到る所に、無數の日本人の墳墓の累々たるを見て、米國大陸の資源を開發する爲に犠牲となつて瘞れた此等の無名の英雄の屍に對して、心から敬弔の意を表さざるを得なかつたのであります。此等の日本移民が世界を開拓して、新文明を建設せんとする烈々たる精神を提げて、屍を異境に埋めたることは、恰かも今日の戦線に於て皇國日本の世界使命を遂行する爲に戦ひつゝある我が將兵の戦歿と同様に、國民から感謝せらるべきであると信ずるのでございます。

日本は必ず勝つ！

而も此等の勇敢なる我が同胞が、いま海の彼方に於て、抑留せられ、恰かも奴隸に等しき虐待を受けつゝあることは、實に我等の憤慨に堪えざる所でありますけれども、戦争は必ず我が日本の勝利に歸するものであります。聽て戦勝つて、我等が彼等を迎へて、凱旋の將兵を待つが如く、その奮闘に感謝し、勞苦を犒ふ日は必ずや來ることを確信するのであります。米英が世界の資源を壟斷し、米英人にあらざる者を奴隸として搾取し、米英獨り富まんとすることが正義でありますか。日

本が全人類を以て大宇宙の大生命から出た尊き存在となし、色の黒白を問はず、財産の有無を論ぜず、全人類を兄弟姉妹として共存共榮し得る新世界を建設するが爲め戦ひつゝあることが、正義でありますか。天は必ず正義に與す。正義を世界に顯現し、全人類が色の黒白を問はず、財産の有無を論ぜず、兄弟姉妹として、共存共榮し得る新世界を建設することが正義に相違なき以上、天は日本と與に立ち、天と與に戦ひ、天と與に勝つことは、火を賭るよりも明かであります。前回の世界大戦の當時、英國のキツチナー元帥は、勇名を世界に馳せたのでありますが、彼がアフリカのスーダンを遠征した當時の罪惡は天人俱に許さざるものであります。英國人が總ての有色人種を虐待するその精神を受けたキツチナー元帥は、スーダンに於て、マホメット教徒と戦ひ、之を虐殺した。殊に甚だしきはマホメット教徒の首領であるマージの墓を發いて、その死骸を引出し、首を切つて之を英國の博物館に送り、その四肢、五體は之を水中に捨て、人間として許し難き罪惡を犯したことは、歴史に顯著であります。そのキツチナー元帥の末路は如何、千九百十六年前回の世界大戦の半ばに於て、彼は英國からロシアに赴いて、ロシアの單獨講和を阻止せんとして英國を出發し、北海を渡らんとする途中彼の乗船は機械水雷に觸れて沈没し、彼も亦マージと同様水中に没して、その一生を終つたのであります。天網恢々疎にして漏さず、如何なる勇將と雖も、不正を行ふ者は、天之を罰せずんば止まざることは、歴史が何物よりも雄辯に之を證明して居るのであります。

此の意味に於て天と與に起ち、天と與に戦ひつゝある日本は、假令一國で戦つて居るとしても、天と與に勝つに相違ないことは、一點の疑を入れません。聽て我が日本軍が米國大陸に上陸して、今監禁せられて居る日本人を一人残らず解放する時は必ず到來するのであります。在米同胞よ、その日を待てと、斷言するを憚らないのであります。私は敵國に抑留せられて居る同胞が天と與に戦ふ者は、必ず天と與に勝つと云ふ信念を堅持して、前途に希望を仰ぎつゝ、奮闘を繼續せられんことを祈つて已まないのであります。私は彼等の生命を天に委ねて、その解放の日を待ちたいと思ふ。日本の政府は彼等の境遇に衷心から同情し、先般議會に於て關係諸大臣から、敵地に抑留せられて居る同胞を救済するが爲に、彼等から送金を受けて居つた者が、送金を受け得ないが爲に、又日本に残つて居る家族で生活に悩む者あれば、之を救済するが爲に、又出来るだけ速かに交換船を用意して、彼等を本國に送還するが爲に、凡そ必要な一切の經費は、總て政府が之を支出すべく、本年度に於きましては、差當り五百五十萬圓を豫算に計上したといふことを聲明せられたのみならず、大藏大臣は尙必要があれば、第二豫備金から幾許でも支出することを厭はないと言はれた事實によつても、我が日本の朝野を擧げて、今敵地に抑留せられて居る同胞の爲に、如何に深甚なる同情を寄せて居るかといふこと、彼等の爲め如何なる協力でも惜しまないといふ精神を抱いて居ることが、明瞭であると思ひますけれども、併しながらこの朝野を擧げての日本國民の同情と協力だけ

でなく、更に目に見えざる天も亦、同じく國家の爲に敵地に抑留せられて居る同胞の爲に、日夜保護し、防禦しつゝあることを私は信じて疑はない者でございます。

私は世界の國旗を見まして神秘的な感じを禁じ得ない者であります。世界の國旗は、世界各國が、相談して拵へたものではありません。各國各々その信ずる所に依つて拵へたものであるに拘らず、世界の國旗を大觀しますと、そこに神秘的なる一脈の連絡を發見せざるを得ないのであります。歴史家は近代文明は東ローマ帝國に始ると申して居りますが、東ローマ帝國の所在地は、即ちバルカン半島とその附近であります。バルカン半島並にその附近の國々の國旗は、總て三日月を以てその中心として居るのであります。即ちトルコを初めとしてその附近の國々の國旗は總て三日月であります。三日月は暗黒から光明に移る最初の象徴でございます。總てヨーロッパの文化は東ヨーロッパ諸國の國旗は色こそ異なれ、各國とも殆ど例外なく三色旗であります。太陽の光線は七色から組織されて居ります。三色は太陽の光線の七分の三に過ぎないけれども、それでも三日月の時よりは、遙かに明くなつたのであります。然るに前回の世界大戰を契機として、ヨーロッパの支配力は大西洋を超えて米國に移動し、米國はヨーロッパに代つて世界を支配せんとするが如き勢力を示すに至つたのでございます。その米國の國旗は、御承知の通り、所謂黎明の旗であります。四十八個の星と七條の太陽の光線とを組合せたものでありまして、黎明を象徴するのであります。ヨーロッパに

於ける太陽の光線の七分の三を現したるものよりも、更に一層明るくなりましたけれども、而も尙未だ太陽を見ることは出来ません。然るに米國から太平洋を渡つて一度我が日本に來ますと、其處には光八絃に輝く太陽そのものが國旗となつて居るものであります。是れ即ち天が我が日本をして、弱肉強食の暗黒なる世界から、人類共存共榮の光明の世界に、全人類を導くべき使命を擔はしめたることを暗示するものと謂はなくてはならぬのでありまして、日本こそ實に世界の太陽であります。私はこの國旗を見るに付けましても、日本國民の世界文明に對する偉大なる使命を信ぜざるを得ないのであります。太陽が一度輝き出づる時には今まで大空に燦然として輝いて居た無數の星は、總て跡なく消えてなくなるのでございます。米國は英國が將に亡國とならんとすることを豫想して、英國の臨終にならない前に、遺産の相續が出来るやう、その名儀の書替をして置こうといふ考へから、既にカナダとは共同防衛の條約を締結し、濠洲とも特殊の關係を結んで、今や米國人はカナダを米國の第四十九州、濠洲を米國の五十州と呼ぶに至つたのであります。假令米國國旗の星數が四十八から四十九、五十に殖えても、太陽一度出づれば、悉くその光を滅することは必然である。凡て日章旗の前進する所、星はその光を失ふのであります。私は昨年正月始めて俳句——と云ふよりは俳句のやうなものを作つて見た。何と書いたかといふと、只今申述べた私の感想を十七字に表したのであります。

日出でて星消えて行く夜明かな
 といふのであります。即ち世界の太陽たる日本崛起に依つて、星の國、米國は消滅し、世界は人類共存の大義に輝く光明の時代に直面しつゝあることを意味するのでございます。我々は天と與に起ち、天と與に戦ひ、天と與に勝つて、世界を照す太陽の使命を實現するのであります。國內の國民諸君も、國外に在つて辛苦艱難せる國民諸君も、共に飄翻たる日章旗の下、最後の勝利を信じて、奮闘を繼續せられんことを祈つて已まぬ次第であります。

落丁その他不良本
 はいつでもお取り
 かへいたします。

昭和十八年八月二十日 印刷
 昭和十八年八月三十日 發行

鬼畜米國の正體 定價金拾五錢

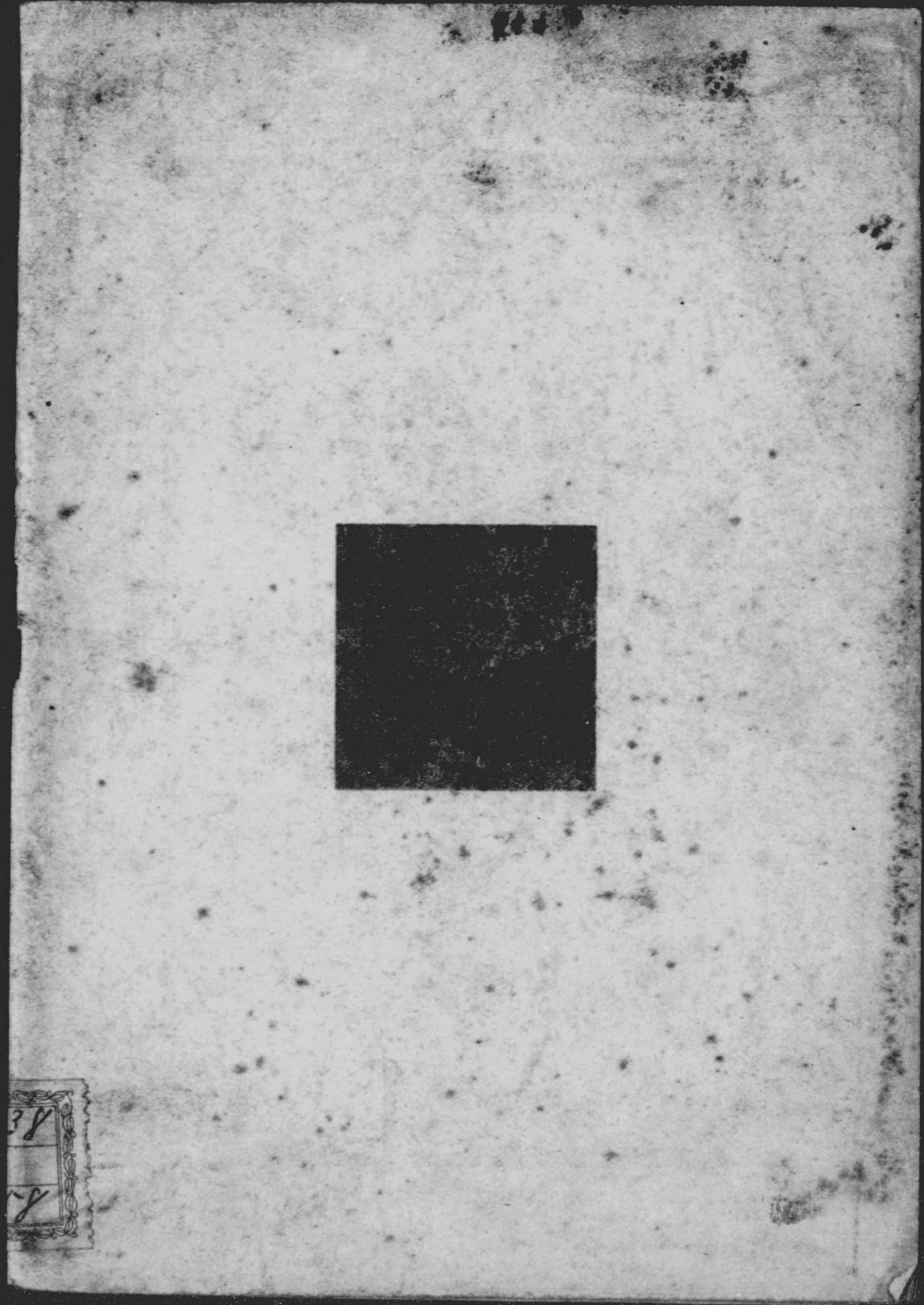
編輯兼發行者 大政翼賛會宣傳部
 東京都麴町區霞ヶ關三丁目壹番地
 代表者 橋本芳藏

印刷者 大文堂合名會社 代表者 田村良知 (東東二〇六)
 東京都小石川區白山御殿町十八番地

發行所 大政翼賛會宣傳部
 東京都麴町區霞ヶ關三丁目一番地

大政翼賛會發行
 圖書取扱所 翼賛圖書刊行會
 東京都神田區駿河臺四丁目二番地
 振替口座東京四三六八〇番

438
 158



38
2